

第一編 自然環境……………1

第一章 位置・面積……………3

第二章 地形……………8

第三章 地質及び土壌……………28

第四章 気候……………43

第五章 生物……………55

〈上巻〉

総目次 (詳細は各編ごとの目次による)

口 絵

発行のことがば 大洲市誌編集会長 大洲市長 榊 田 與 一 (13)

大洲市誌を読まれる人のために…………… 編集委員会 (15)

第二編 歴史

第一章 原始・古代……………83

第二章 中世……………107

第三章 近世……………143

第四章 近代……………274

第三編 教育……………327

第一章 藩政時代の教育……………329

第二章 明治以後の教育……………355

第四編 宗教……………433

第一章 神社……………435

第二章 寺院……………436

第三章 キリスト教……………504

第四章 教派神道・その他……………511

第五編 民俗……………517

第一章 地域社会の構造……………519

増補 改訂 大洲市誌 目次

- (4) 出展、史料等の示し方
記述は史実や資料に基づき、出所、出展等は、「[]」で示した。
- (5) 数の記述について
*年号の表記は、西暦を基に日本の年号を記述することを基本にした。
[例] 一九四五年(昭二〇) 一八六八年(明治元)
- ただし、日本年号の方が理解し易いと判断される場合は、この限りではない。また、時代の節にあたる年は基本を守り頁内に頻繁に記述がある場合は、所々両方を記述することにした。その他の記数法は初版に準じた。
- (6) 地名の記述
歴史的記述中に表れる地名のうち、当該時代と現在の地名とが異なる場合には、旧地名を記し、()で現在の地名を補うことを原則とした。
*「大津」は、一六五七年(明暦 3)まで、
「大洲」は、一六五八年(万治 元)から記述するが、
大津(大洲)と記述することもあり入れた。
- 4、写真・図版・表の表記の仕方
写真と図版と表に分け、各編ごとに通し番号を付けた。
[例] *写2-5 (写真第二編の5番目の意)
*図4-8 (図版第四編の8番目の意)
*表8-10 (表第八編の10番目の意)
- 5、各編の記述について
(1) 自然環境編では、この二〇年あまりの間に、かなりの変化がみられる部分もあるので、配慮して記述した。
(2) 歴史編では、新しい発見や判明による記述を加え、庶民生活

- の記述についても配慮した。平成七年三月一日〜二日の南隅橋の史料点検などによっても記述した。
- (3) 教育編は、学校教育、社会教育において発展変化著しいため、過去の記述や資料の点検を重ねて追加記述した。また、社会教育の進展により、同和教育、その他の内容を関係機関の協力により記述掲載した。
- (4) 宗教編の写真掲載について
神社は、旧村社・旧郷社・旧県社を基にし、寺院、キリスト教、その他の宗教も出来るだけ写真を多くした。
- (5) 民俗編では、過去の行事や習慣には、好ましいものもあるが、言い伝えや因習の中には、差別用語も多く、関係機関での検討を行い、文化を理解し伝える範囲で最小限にした。
- (6) 諸芸・文化財・観光編では、資料が多いので、写真等多くの資料を掲載した。
- (7) 人物編においては、大洲では多くの人材を排出しており、掲載しきれないので、初版の人物を基に、原則として、大洲に生活し、大洲へ貢献し、それが顕彰された人物の中から、市誌編集委員会及び編集委員会同合会で選定し掲載した。
- (8) 行政・財政・産業・経済・土木編では、統計表などできるだけ横書きを原則とし、可能なものは、グラフ化するなど視覚化を図った。
- (9) 年表編では、宮元数美先生、森本定満先生外多くの関係者の校閲訂正と歴史編その他の編集員の検討によった。昭和四十六年から平成七年二月までは、広報おおず、市政要覧、大洲商工会議所四十周年史、観光年表、県史年表等によった。
編集委員会

第二章 衣食住……………535

第三章 労働慣行……………555

第四章 年中行事……………565

第五章 人生儀礼・民間信仰……………578

第六章 民話と伝説……………589

第七章 こどもの生活……………599

第八章 民謡……………607

第九章 郷土芸能・その他……………618

第二〇章 俚諺・方言……………621

第六編 諸芸・文化財・観光……………637

第一章 諸芸及び文化団体……………639

第二章 文化財……………696

第三章 観光……………738

第七編 人物……………753

〈下巻〉

第八編 行政・財政……………781

第一章 行政区画の変遷……………784

第二章 市制実施……………805

第三章 財政……………841

第四章 社会福祉……………858

第五章 保健衛生……………893

第六章 土木……………930

第七章 警備・治安……………945

第八章 徴兵・兵事……………990

第九章 選挙……………1023

第二〇章 労働問題……………1050

第二章 広報広聴及び区長会……………1056

第三章 大洲市内の官公署・施設等……………1067

資料 大洲市の開発構想……………1079

第九編 産業・経済・土木……………1109

第一章 農業……………1112

第二章 林業……………1268

第三章 商業……………1281

第四章 鉱工業……………1306

第五章 漁業……………1324

第六章 金融……………1329

第七章 交通・運輸・通信……………1348

第八章 公共下水道……………1380

第九章 上水道……………1385

第三〇章 都市計画……………1387

第一〇編 年表……………1397

索引……………1465

*人物索引……………1465

*一般項目索引……………1466

おわりに……………大洲市誌編集会副会長 稻積 侑喜 1467

大洲市誌の編纂にたずさわった人々……………1468

大洲市誌編集会の組織表……………1469

編纂を終わって 大洲市誌編集・編集委員長 稲田 實留 1470

地名の正しい読み方一覧表……………1471

大洲市全図……………1472

見かえし

上巻 伊予一國之絵図

下巻 大洲城下武家屋敷図 大洲城中図

- 5 泰興の領政.....159
- 6 家臣団の充実.....161
- 二 新谷藩の創立.....162
 - 1 分知逆首紛争.....162
 - 2 新谷陣屋.....164
 - 3 新谷家臣団と藩領.....164
- 第三節 藩政の固定と天領.....165
 - 一 藩主家統 (一).....165
 - 1 大洲藩後嗣.....165
 - 2 新谷藩後嗣.....166
 - 3 池ノ端家.....167
 - 二 知行制度の変革と民政.....167
 - 1 蔵米給与への移行.....167
 - 2 民政と仏教.....168
 - 三 災害とその影響.....170
 - 1 泰恒・泰統時代の災害.....170
 - 2 藩財政の衰弱.....170
 - 四 天領問題.....172
- 第四節 文運進展と藩財政の推移.....173
 - 一 藩主家統 (二).....173
 - 1 大洲藩後嗣.....173
 - 2 新谷藩後嗣.....174
 - 3 池ノ端家.....175

- 4 伊能忠敬の大洲領測量.....211
- 三 泰幹の治世.....212
 - 1 公役・災害と省略.....212
 - 2 産業と民政.....214
- 四 新谷藩の財政と民政.....217
 - 1 泰賢の時代.....217
 - 2 泰儔の時代.....218
 - 3 泰理の時代.....220
- 五 藩校の充実と字の多様化.....221
 - 1 明倫堂と求道軒.....221
 - 2 諸学推進.....222
- 六 編集事業と藩版の刊行.....222
 - 1 編著と刊行.....222
 - 2 泰済・泰幹と韓魏公集.....225
- 七 農民の生活と農民問題 (二).....226
 - 1 農民の生活.....226
 - 2 農民騒動.....229
 - 3 竹之窪水論.....232
- 第六節 幕末期の領況.....237
 - 一 藩主家統 (四).....237
 - 1 大洲藩後嗣.....237
 - 2 新谷藩後嗣.....237
 - 二 泰社の治世.....238

- 二 藩体制の確立.....176
 - 1 藩政の方向.....176
 - 2 大洲藩家臣団.....179
 - 3 新谷藩家臣団.....180
- 三 政教一致と藩校の創設.....181
 - 1 陽明学と藩校の創設.....181
 - 2 北藤録と温故集.....183
- 四 藩財政の推移.....183
 - 1 享保の大飢饉.....183
 - 2 泰温の治世と財政.....184
 - 3 泰尙の治世と財政.....186
 - 4 泰候の治世と財政.....188
- 五 農民問題 (一).....190
 - 1 寛延内ノ子騒動.....190
 - 2 蔵川騒動.....195
- 第五節 藩政改革と教学の充実.....196
 - 一 藩主家統 (三).....196
 - 1 大洲藩後嗣.....196
 - 2 新谷藩後嗣.....198
 - 二 泰済の治世.....199
 - 1 公役と災害.....199
 - 2 省略と財政再建.....202
 - 3 領政及び諸改革.....204

- 1 安政大地震.....238
- 2 勦農と凶作救済.....239
- 3 長浜波戸構築.....241
- 三 泰秋の治世.....243
 - 1 省略と献銀.....243
 - 2 民 政.....244
 - 3 奥福騒動(大瀬騒動).....247
- 第七節 尊王攘夷と藩の動向.....248
 - 一 激動期の大洲・新谷藩.....248
 - 1 海岸非常手当.....248
 - 2 坂本龍馬脱藩.....249
 - 3 京都非常警備と大洲・新谷藩.....251
 - 4 農兵制度の展開.....252
 - 二 官廷守衛と勤王活動.....254
 - 1 八、一八クーデター.....254
 - 2 海防と藩論統一.....257
 - 三 長州取扱いと西宮警守.....258
 - 1 長州取扱い問題.....258
 - 2 西宮警守.....259
 - 四 各国往来と長州兵上陸援護.....259
 - 1 使者交換.....259
 - 2 長州兵西宮上陸.....260
 - 五 王政復古.....262

1 変革一新……………262

2 大洲藩宮廷守衛……………263

3 戊辰戦争の勃発……………264

六 いろは丸と洪福丸……………265

第八節 宇和島藩政下の平地・野田村……………268

一 宇和島藩の成立……………268

二 検地と石高……………269

三 土地割替制度……………270

四 庄屋……………270

五 支配体制……………272

第四章 近代……………274

第一節 明治維新と大洲藩……………274

一 加藤泰秋……………274

第二節 大洲(若宮)騒動と山本大参事……………277

一 発端……………277

二 鎮撫……………278

三 大参事自刃……………279

四 大参事の人となり……………280

五 頌徳……………280

第三節 西南騒擾事件……………281

第四節 明治の先覚者……………285

一 矢野玄道……………285

二 香渡晋……………289

三 三瀬 諸淵……………293

四 武田 成章……………297

五 政尾 藤吉……………301

第五節 明治以後の大洲城……………303

一 概説……………303

二 重要文化財保護法と大洲城……………304

三 解体修理と史的考察……………304

第六節 特産物の変遷……………305

一 養蚕業と製糸業……………305

二 楮と木蠟……………312

三 大洲半紙……………314

第七節 肱川の大水害……………315

第八節 肱川架橋……………318

第九節 愛媛鉄道と国鉄……………320

第二節 太平洋戦争と銃後の生活……………321

第三編 教育……………321

第一章 藩政時代の教育……………329

第一節 大洲藩・新谷藩の教学……………329

一 藤樹学とその余風……………329

1 好学の種子……………329

2 藤樹の研修……………329

3 藤樹の脱藩……………330

4 藤樹の門弟……………331

5 藤樹学の余風……………331

二 泰興時代の教学……………334

1 泰興の研修……………334

2 盤珪の徳沢……………334

3 直泰と新谷藩……………335

三 泰恒時代の教学……………335

四 陽明学と止善書院明倫堂、求道軒の創立……………336

五 川田家相承と門下……………337

六 泰衡の修史事業と私学の発足……………338

七 泰済・泰幹の藩校充実と求道軒の再興……………340

八 泰祉・泰秋・泰令の研修とその時代……………344

九 維新のころの人々……………345

二 明倫堂の推移と錦綱舎の創立……………349

第二節 庶民教育……………350

一 世俗教育……………350

二 私塾、寺子屋の教育……………351

1 当地方の私塾、寺子屋……………351

2 寺子屋一覧……………353

第二章 明治以後の教育……………355

第一節 明治初年の教育……………355

一 明倫堂と錦綱舎……………355

二 求道館……………355

三 古学堂……………355

第二節 諸学校の沿革……………356

一 小学校・中学校……………356

1 学制発布……………356

2 神山県の動向……………358

3 愛媛県初期の動向……………360

4 教育令……………363

5 改正教育令……………364

6 小学校令……………365

7 小学校令改定……………367

8 義務教育六年制……………369

9 教育の充実……………369

10 国際不安……………370

11 非常時下の教育と国民学校……………370

12 戦後の教育……………372

13 新学制と学校教育の変革……………373

14 小中学校の変革……………377

二 高等学校……………390

- 三大 学..... 393
- 四 幼稚園..... 393
- 五 その他..... 395
- 1 実業補習学校・青年訓練所・青年学校..... 395
- 2 大洲少年自然の家..... 398
- 3 国立大洲青年の家..... 398
- 第三節 教育委員会..... 399
- 第四節 育英事業..... 401
- 第五節 教育関係団体の動向..... 402
 - 一 愛媛県教育会喜多部会..... 402
 - 二 喜多郡教員組合..... 404
 - 三 愛媛県教育研究協議会大洲支部..... 405
- 第六節 社会教育..... 406
 - 一 公民館..... 407
 - 二 婦人会..... 409
 - 三 青年団..... 413
 - 四 P T A..... 417
 - 五 図書館..... 420
 - 六 博物館..... 422
 - 七 郷土館..... 423
 - 八 大洲児童館..... 424
- 第七節 同和教育..... 424
 - 一 同和問題の本質..... 424

第四編 宗教

- 一 同和教育の歩み..... 425
- 二 同和教育の実際..... 427
- 第一章 神社..... 435
 - 第一節 神社の変遷..... 435
 - 第二節 現代の神社..... 445
- 第二章 寺院..... 466
 - 第一節 寺院の変遷..... 466
 - 一 寺院のおこり..... 466
 - 二 藩政時代の寺院..... 467
 - 三 明治時代..... 471
 - 四 現代..... 474
 - 第二節 現在の寺院..... 478
 - 一大 洲..... 479
 - 二 平野..... 489
 - 三 南久米..... 490
 - 四 菅田..... 491
 - 五大 川..... 493
 - 六 新谷..... 494
 - 七 柳沢..... 498

- 八三 善..... 499
- 九八 多喜..... 500
- 一〇 上須戒..... 502
- 第三章 キリスト教..... 504
 - 第一節 沿革..... 504
 - 第二節 教会..... 508
- 第四章 教派神道・その他..... 511

第五編 民俗

- 第一章 地域社会の構造..... 519
 - 第一節 地域社会の変遷..... 519
 - 一 昔の部落..... 519
 - 二 部落の自治(その一)..... 519
 - 三 部落の自治(その二)..... 520
 - 四 地名のおこり..... 522
 - 第二節 同族関係..... 526
 - 一 血筋..... 526
 - 二 身分関係..... 527
 - 三 氏神..... 527
 - 第三節 村のつきあい..... 529

第二章 衣食住

- 第一節 衣生活..... 536
 - 一 きもの..... 536
 - 二 はきもの..... 539
 - 三 かぶりもの..... 541
 - 四 雨具..... 542
- 第二節 食生活..... 543
 - 一 食物..... 543
 - 二 炊事施設..... 546
 - 三 調理・炊事用具・食器..... 547
- 第三節 住生活..... 549
 - 一 農家..... 549
 - 二 町家・武家屋敷・集合住宅..... 551
 - 付 灯火・照明..... 552
- 第一組入り..... 529
- 二 入合地..... 529
- 三 その他のつきあい..... 530
- 第四節 講..... 530
- 第五節 若連中と子供組..... 531
- 第六節 身分的呼称..... 533

第三章 労働慣行……………555

第一節 共同作業……………555

第二節 奉公・日雇い……………558

第三節 産業の近代化と労働……………562

第四章 年中行事……………565

第五章 人生儀礼・民間信仰……………578

第一節 出産・育児……………578

第二節 婚姻……………581

第三節 厄払い・年祝い……………583

第四節 葬祭……………583

第五節 民間信仰……………585

第六章 民話と伝説……………589

第七章 こどもの生活……………599

第一節 こどもの遊び……………599

第二節 わらべうた……………600

第八章 民謡……………607

第一節 労働の中の歌……………607

第二節 祝いごと・祈願ごとの中の歌……………612

第三節 盆踊りの歌……………613

第四節 子守歌……………613

第九章 郷土芸能・その他……………618

第二章 俚諺・方言……………621

第一節 俚諺……………621

第二節 方言……………625

第六編 諸芸・文化財・観光

第一章 諸芸及び文化団体……………639

第一節 美術・工芸……………639

一 書道……………639

二 画道……………645

三 窯芸・漆芸……………651

四 刀剣・金属工芸・その他……………656

第一節 文芸……………659

一 和歌……………659

二 俳諧……………665

三 川柳……………673

第三節 武芸その他・文化団体……………674

第二章 文化財……………696

第一節 有形文化財……………700

一 建造物……………700

二 石造美術……………706

三 絵画……………706

四 彫刻……………708

五 工芸……………710

六 書跡……………713

七 古文書……………716

第二節 無形文化財……………718

第三節 民俗文化財……………718

一 有形……………718

二 無形……………719

第四節 記念物……………720

一 史跡……………720

二 名勝……………727

第五節 天然記念物……………728

第三章 観光……………738

第一節 観光資源の現状……………738

第七編 人物……………756

第一節 有名所旧跡……………738

二 観光施設……………744

三 観光事業……………745

四 観光行事……………746

五 名物・名産……………748

六 観光コース……………749

第二節 観光推進の機関・団体……………750

足達儀國……………756

有友正親……………756

安西(總督安西)……………756

井口松江……………756

池田實兵衛……………756

池田龍一……………757

生駒宗忠……………757

石王塞軒……………757

逸山祖仁……………757

井上要……………757

井上仁郎……………757

今川七郎……………758

岩田源介……………758

植木秀幹……………758

上田久太郎	758
宇都宮貞泰	758
宇都宮豐綱	758
宇都宮豐房	758
宇都宮龍山	759
大井上輝前	759
大谷又平	759
大塚敬	759
大月滿前	760
大月履齋	760
大野直之	760
大野了佐	760
大橋作右衛門	760
大橋英信	760
岡文四郎	760
岡本國道	761
岡本國良	761
岡本隆國	761
冲永莊兵衛	761
奥野源左衛門	761
小倉通勝	761
梶谷永五郎	762
加世季弘	762

加藤貞泰	762
加藤主馬	762
加藤直泰	762
加藤文麗	762
加藤光泰	762
加藤泰秋	763
加藤泰温	763
加藤泰興	763
加藤泰颯	763
加藤泰濟	763
加藤泰武	763
加藤泰理	763
加藤泰周	763
加藤泰恒	763
加藤泰貫	763
加藤泰候	763
加藤泰社	763
加藤泰僞	763
加藤泰官	763
加藤泰令	763
加藤泰廣	764
加藤泰賢	764
加藤泰衍	764

加藤泰通	764
加藤泰統	764
加藤泰幹	764
加藤泰行	764
加藤泰義	764
鎌田五根	764
鎌田正澄	764
亀岡哲夫	765
川崎成甫	765
川田爲谿	765
川田雄琴	765
姜沆	765
菊沢與八	766
城戸正竦	766
城戸通德	766
木野戸勝隆	766
國島六左衛門	766
窪田哲二郎	766
河内可睡	766
香渡晋	767
河野喜太郎	767
神山諦鏡	767
古鏡道明	767

兒玉暉山	767
兒玉氏精	767
兀庵頼微	767
小林彌平次	767
小森誠一	768
櫻井久次郎	768
佐々木喜桑	768
下井小太郎	768
春殿祖東	768
樵禪禪鎧	768
真空妙應	769
宿茂稼暁	769
巢内式部	769
須内實三郎	769
曾根愛山	769
染木清懿	769
泰實奚疑	769
高山長幸	770
竹内重利	770
武田成章	770
武田千穎	770
武田豐城	770
武田敬孝	770

榊山健三.....776
 松井國五郎.....777
 松岡高堅.....777
 松村正恒.....777
 三瀬幸三郎.....777
 三瀬諸淵.....777
 官脇通赫.....777
 村上莊三.....778
 森井千代丸.....778
 森永覺太郎.....778
 森永富茂.....778
 安川右仲.....779
 矢野玄道.....779
 山田積善.....779
 山田東海.....779
 山中稜威道別.....779
 山本節庵.....779
 山本尚德.....779
 由比浮舟.....779
 横田傳松.....779
 吉元誠一郎.....780
 若宮養德.....780
 脇坂安治.....780

武智吉太夫.....770
 多田順三郎.....770
 近田八束.....771
 力石高山.....771
 力石雄一郎.....771
 藤堂高虎.....771
 常磐井殿戈.....771
 常磐井守貨.....771
 徳田彦六.....771
 得能淡雲.....771
 戸田勝隆.....771
 戸田勤助.....772
 戸田養恬.....772
 富永彦三郎.....772
 豊田太郎.....772
 中江藤樹.....772
 中川謙叔.....772
 中野和高.....772
 中野忠晴.....772
 中野雅夫.....773
 中野俊治.....773
 中村坦藏.....773

渡邊勸兵衛.....780
 渡邊唯一.....780

仁井三魚.....773
 二宮敬作.....773
 沼田恒夫.....773
 野田廣足.....773
 野々村玄透.....773
 反田八郎兵衛.....774
 盤珪永琢.....774
 檜田一.....774
 兵頭守敬.....774
 兵頭正懿.....774
 兵頭義高.....774
 平田鎮胤.....774
 平塚健.....775
 平野正臣.....775
 弘岡道明.....775
 別宮猶重.....775
 別峯海瑞.....775
 卜星建洞.....775
 細川一.....776
 程野茂三郎.....776
 堀澤周安.....776
 政尾藤吉.....776
 榊田與三郎.....776

第九章 上水道……………1385

第二〇章 都市計画……………1387

第一節 都市計画法制の沿革……………1387

第二節 大洲市の都市計画……………1388

一 都市計画区域……………1388

二 土地利用計画……………1388

三 都市施設……………1389

1 交通施設……………1389

2 公園・緑地等……………1391

3 下水道……………1393

4 供給処理施設……………1393

四 市街地開発事業……………1393

五 都市計画の制限……………1394

六 その他……………1395

第二編 年表……………1397

索引……………1466

*人物索引……………1465

*一般項目索引……………1460

おわりに……………大洲市誌編纂会副会長 稲積 洵熹 1467

大洲市誌の編纂にたずさわった人々……………1468

大洲市誌編纂会の組織表……………1470

編集を終わって 大洲市誌編纂・編集委員長 稲田 實留……………1470

地名の正しい読み方一覧表……………1472

大洲市全図……………1471

見かえし

上巻 伊予一国之絵図(加藤家蔵)

下巻 大洲城下武家屋敷図 大洲城中図(加藤家蔵)



河向のコナラ
(市指定天然記念物)
昭和51年11月24日指定

第一編 自然環境